7-5 学習・教育活動への活用

ジオパークは地質遺産だけではなく大地の成り立ちや生態系や人々の営みまでが対象であり、地域の魅力を知り、持続的な地域社会を創っていくためには絶好の教材であることから、今後も市民や教育現場を対象とした出前講座や現地学習等を通じて四国西予ジオパークについて学ぶ機会を設ける。

また、「持続可能な開発目標(SDGs)」達成のために意識・行動の変革をもたらす学び(ESD)の役割は重要である。そのため、総合学習やＰＴＡ活動の一環としてジオパーク学習を積極的に取り込み、若い世代の地域への誇りや地元の価値への気づきを喚起するとともに、地域への関心を高める必要がある。

(1) 市民へのジオパーク学習

計 画 内 容

地域や団体・組織のニーズに合わせて出前学習や意見交換等を行うとともに、ジオサイトや地域の無形文化遺産等を活用した市民向けのジオツアーや学習会を行うことによって、ジオパークに関する幅広い知識を学ぶ学習機会の創出を図る。

1.現状・課題

ジオパークに関心がある人、自分が住んでいる地域や市内のサイトを知っている人はまだ多くないと考えられる。ジオパークのエリア内での生涯学習プログラムを継続して実施する必要がある。

2.計画詳細

ジオパーク推進室は、四国西予ジオパークの普及・啓発に努め、地域間の交流を促進するために、生涯学習課やスポーツ・文化課、経済振興課、環境衛生課、危機管理課等と連携し、市民への出前講座やガイド付きのジオパーク学習会を行い、市民と一体となったジオパーク活動を推進する。

せいよ自然と暮らしのカレッジ

また、平成 30 年度から実施している「せいよ自然と暮らしのカレッジ」のフィールドワークを継続的に開催する。当該事業は専門機関や市役所の他部署、地域に詳しい市民等と連携し、地域内を様々な視点から見て歩くことで、新たな見どころや風景の発見につなげ、ジオパークの楽しみ方が理解できるよう工夫している。防災学習の観点からも地域の地形や地質に対しても関心を高める。

市民ジオツアーについては、ジオガイドの利用を促し、よりジオパークへの理解を深めるとともに、ジオガイドが活躍できる機会の拡大を図る。

3．実施スケジュール

推進作業	2019（令和元年度）				2020（令和 2 年度）				2021（令和 3 年度）			
	2Q	3Q		4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
ジオパーク学習会の開催												
出前講座の開催												
市民ジオツアーの開催												

4．達成目標

■市民対象としたジオパーク学習会の開催件数　年５件以上

■市民が参加するジオツアー件数　年 10 件以上

■出前講座の開催件数 年５件以上

(2) 児童生徒へのジオパーク学習

計 画 内 容

教育部局等と連携し市内教育現場での出前授業や野外学習、食育を継続して行うことで、四国西予ジオパークを通じた地域学習や自然科学・人文科学等への学びを促進する。

1．現状・課題

西予市教育基本方針の中では、ジオパーク学習に積極的に取り組むことが明記されている。教育現場において四国西予ジオパークを活用しやすいように、市教委の学校教育課内に学校側の受け入れ窓口を設置し、ジオパーク推進室に学校側の希望内容等をつなぐ体制を整備した。また、市教委も学校のジオパーク学習に教育振興基金の活用を可能とし、学校に経費負担が生じないような仕組みができあがっている。

学校によって取り組みに関しての温度差はあるものの、総合学習や理科、社会科（地理・歴史）及び学校行事としてジオパーク教育を行うことは表４に示すように教育現場にも多くのメリットをもたらすことも考えられるため、取組みを進めていく必要がある。

教育現場における出前講座

狩浜の段々畑での野外学習

表４.教育現場におけるジオパーク教育のメリット

	実施メリット	メリット概要
①	『またとないふるさと教育のチャンス』	自分が住む地域にすばらしい地域資源があることを教えられるため、自分のふるさとに誇りをもてるようになる。結果として、郷土離れを防ぐことにもつながる。
②	『総合的な学習の時間の格好のテーマ』	四国西予ジオパークを学ぶことで、色々な分野の知識を習得することができるため、総合的な学習の時間のテーマとして非常に扱いやすい。
③	『学習指導要領との合致』	学習指導要領解説「社会編」および「地理歴史編」では、観察や調査・見学などの体験的な活動の充実を図ることや、身近な地域や国土の遺跡や文化財などの観察や調査を取り入れるようにすることが掲示されており、ジオパーク教育においては、これらの活動がもれなく、かつ効果的に実践することができる。
④	『理科教育・社会科（地理・歴史）教育の深化』	ジオパークは学際的・分野横断的なものであるが、とくに理科教育、社会科（地理・歴史）教育に関連した項目の比重が高い。大地の成り立ちや生態系、人々の営みとの関係を理解することは理科教育の重要項目であり、地域社会や産業の歴史・成り立ち・しくみの理解は社会科教育の根幹をなすものである。
⑤	『防災・減災教育としての機能』	ジオパークでは自然現象や災害についても学べるため、防災・減災教育としても機能する。結果として、災害に強い人材を数多く輩出し、地域の防災力を高める効果もある
⑥	『ジオの恵みを活かした食育の推進』	身近な食をジオの恵みと位置付け、学校給食等を活用し様々な地域の食に関する知識や旬の食材・食文化を学ぶことにより、食を通じた郷土愛を育むことができる。
⑦	『ESD（持続可能な開発のための教育）の実践』	生物多様性や気候変動といった環境問題を鑑みて、人や自然に負荷をかけない経済活動を実践方法や社会の規範を考えることで、地域の資源を持続的に活用することができる人材の育成に取り組むことができる。

２．計画詳細

ジオパーク推進室や学校教育課、教育現場と連携し、ジオパーク学習を通じて郷土愛を育むとともに、地域の課題を扱うプロジェクト学習の推進等のために、学校教育の正規の授業（総合的な学習の時間等）へのジオパーク学習の導入を促進する。

また、四国西予ジオパークの特徴や、地域の地質・地形の学びを加えた防災教育、植生や昆虫などの生態系、文化や人々の暮らしなどについて、より深く学ぶ機会を設ける。

さらに地産地消や食育の推進については、学校教育課及び健康づくり推進課、農業水産課が連携し、地元食材や郷土料理を通した食育（ジオ食）を計画的に推進する。それにより学習や食育を通じて地域への誇りを育むことが期待できる。

３．実施スケジュール

推進作業	2019（令和元年度）			2020（令和２年度）			2021（令和３年度）		
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
教育現場への導入促進											
出前講座の開催											
校外学習の開催											

４．達成目標

■令和元年度以降、前年度比でジオパーク学習の回数の増

■教員向けのジオパーク研修の実施回数

令和元年度　２件　　令和２年度　２件　　令和３年度　２件

(3) ジオパーク学習資料の活用

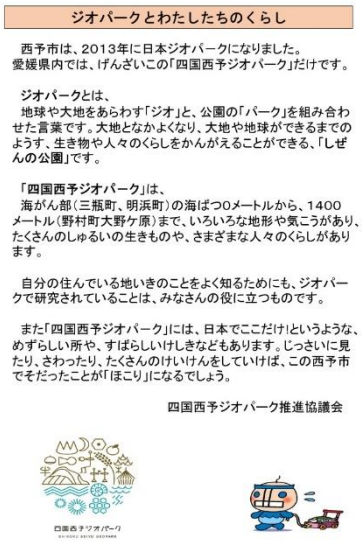
計 画 内 容

市内におけるジオパーク学習を促進するために、出前授業や野外学習において活用することができる統一した資料を作成しその活用を推進する。

１．現状・課題

西予市全域でジオパーク学習を促進するためには、教師や児童が使用する統一的な学習資料の作成が必要不可欠である。四国西予ジオパーク推進協議会の

教育部会の活動によってこれまで、小学校（中学年及び高学年）、中学校、高校といった４つの区分でそれぞれ学習資料を検討・作成しているが、まだ十分な活用には至っていない。



ジオパークとわたしたちのくらし

西予市は、2013年に日本ジオパークになりました。
愛媛県内では、げんざいこの「四国西予ジオパーク」だけです。

ジオパークとは、
地球や大地をあらわす「ジオ」と、公園の「パーク」を組み合わせた言葉です。大地となかよくなり、大地や地球ができるまでのようす、生き物や人々のくらしをかんがえることができる、「しぜんの公園」です。

「四国西予ジオパーク」は、
海がん部（三瓶町、明浜町）の海ばつ0メートルから、1400メートル（野村町大野ケ原）まで、いろいろな地形や気こうがあり、たくさんのしゅるいの生きものや、さまざまな人々のくらしがあります。

自分の住んでいる地いきのことをよく知るためにも、ジオパークで研究されていることは、みなさんの役に立つものです。

また「四国西予ジオパーク」には、日本でここだけ！というような、めずらしい所や、すばらしいけしきなどもあります。じっさいに見たり、さわったり、たくさんのけいけんをしていけば、この西予市でそだったことが「ほこり」になるでしょう。

四国西予ジオパーク推進協議会

四国西予ジオパーク

教育部会が作成した学習資料

２．計画詳細

出前授業や野外学習といったジオパーク教育に活用することができる児童・生徒向けの学習資料が、四国西予ジオパーク推進協議会の教育部会及び学校教育課の協力のもと完成している。発達段階にあわせ、４つの区分で作成した学習資料は、学校教員が取り扱いやすいようパワーポイントとワークシートで構成しているが、今後は計画的に教員向けの研修会等を通じて市内学校への普及を図る。

３．実施スケジュール

推進作業	2019（令和元年度）			2020（令和２年度）			2021（令和３年度）		
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
学習資料の配布											
学校における資料の活用											
資料の更新											

４．達成目標

■テキストを活用したジオパーク学習を実施する学校の増加　**年３校以上**

(4) 児童生徒向けのガイドツアー

計 画 内 容

学校教育に特化したパンフレットや発達段階に応じた説明ができるガイドの育成などにより、学校が取り組みやすい環境を整えてガイドツアーを増加させる。

1.現状・課題

学校向けのジオツアーと一般客のジオツアーとをほぼ同様に扱っている現状がある。学校向けのパンフレットや資料、子どもの発達段階に応じたガイドの工夫等により、将来的には他の自治体や他県から、児童生徒の団体旅行誘致にも広げていく。

2.計画詳細

児童生徒向けのガイドツアーに関しては現場の教員が取り組みやすいように、ジオパーク推進室で予め学習向けのコース設定を行ったものの中から選択できるような仕組みを作る。

また、学校向けのジオツアーに特化したガイドの養成に関しては現在のところ行っておらず、ガイドをする中で子どもたちがまだ学習していない内容や用語を使用している可能性もある。学習指導要領の理解や、学校向けのパンフレット、説明資料等を整備することも併せて行い、児童生徒向けのガイドツアーが効果的に実施できるような環境整備を行う。

3.実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)			2021(令和3年度)		
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
ツアーのコース提案											
対応ガイドの養成											
資料作成											

4.達成目標

■ 学校教育で取り組んだガイドツアーの回数

令和２年度　15 件以上、令和３年度　20 件以上

■ 児童生徒向けに特化したガイドによるツアーの回数

令和２年度　３件以上、令和３年度　５件以上